

この代のここまで

昨夏この代がスタート、すぐ行われた新人大会で連勝し、地区のシード権を獲得できたおかげで、秋の地区予選を突破、県大会に出場することができました・・が、私の内心（評価）は「この代は相当弱い。特にバッテリーが厳しい」というものでした。前チームが人数は少なかったものの、バッテリーがしっかりしていて常に戦っていたのとは対照的に、守備が脆く、一方的にやられる練習試合が数多くあったからです。

ただ、オフシーズンは、そんな内心のあせりが生徒達に伝わらないよう気をつけて過ごしました。過去の経験から「あせり」は失敗につながることを把握していたからです（あせって練習時間や練習量を急激に増やしても選手は伸びない）。大事なことは「自ら進んで取り組むようにすること」「余力ある状態で全体の活動は終了し、個人レベルの活動を促すこと」「試合で結果を出すために取り組んでいることを意識させること」こんな感じでしょうか。

結果（私は知らないという形で構いませんが、結構情報は入ってきました）選手が自分自身に投資、全体練習後ジムへ通ったり、食事関係を家族ぐるみで変えたりしてオフシーズンを過ごしたようです（久し振りに選手達を見たOBの方々から秋より身体がかなりデカくなっている（技術面も相当伸びているのではないか）そんな評価をいただきました。

今（私も担任をしているので分かっていますが）（進学校の）生徒が日常勉強しなければならない量は半端ありません。毎日の勉強時間は最低学年プラス1時間（私の担任する2年生なら3時間）、そんなの関係ないと野球部だけ（勉強無視で）突っ走る訳にはいきません。学校が進むべき方向に進みながら野球の結果も出すやり方を探らなければならないのです。

2年連続、夏のシード権を獲得しました。
文武両道の意地、夏も見せたいと思います！

今号は5月7日号

第1267号です

球部通信

発行者

鈴木 諭

マネの活躍

市高選手は春大会を終えましたが、マネージャーと私はむしろここからが役員・補助員として本格的な春大会、私達の世界はチームが生き残っている間は自チーム優先、敗退したら役員や補助員優先という形だからです。

マネージャーが本部で行う仕事は様々ですが、メインは、1・アナウンス、2・スコア担当（手書き）、3・同じくスコア担当（パソコン入力）の3つだと思います（翌日の新聞発表等ある関係で、試合後、手書きのスコアと電子入力したスコアが合っているかの確認作業があります。それらの作業は、最終試合が終わってからもう1試合行うぐらいの時間がかかります）。また、各校選手にレギュラー争いがあるのと同じように、マネージャーも地区大会での様子を役員がチェック、大会が進み、メイン球場（埼玉県は大宮公園）で行われるそれらの仕事は、選出された生徒が行うという仕組みになっています。

準々決勝のこの日、大宮公園球場には（GW中、花咲徳栄、浦和学院両校の登場ということで）多くの方が来場されました。そんな中、本部のその主要な仕事のすべてを市立浦和高校マネージャーが行いました（2試合共、アナウンスが市高マネだったことは（少々大袈裟ですが）私にとっては感動的でした）。

選手の成長だけでなく、マネージャーの成長も楽しみにしながら日々の活動に取り組んでいます。こんな活動をしたい中学生の皆さん、ぜひ、市高にお越しください。お待ちしております。

※ 春大会最終日、3年マネの高橋は閉会式の総合司会、同じく3年マネの大野は手書きスコアを担当しました。県を代表するマネージャーになりつつあります。素晴らしいことです。